再発見　「立って走り回りなさい！」

一試合中に何回も「立っていなさい」と叫びたくなります。
「なぜ地上に横たわるの」と、何回も問い質したくなっているうちに、ラグヒーが面白くなくなってしまうのを残念に思っています。それは、ラグビーを詳しく知らない人達には「ラグビーは分かりにくい」「面白くない」という気持ちの原因にもなっているのです。
試合に勝つことで頭が一杯の人には、勝つ工夫以外のことは一切耳に入らないというのは困ったものです。愛するラグビーのために、引いては自分の人生充実のために、ラグビーを客観的に見て、ラグビーを楽しむ方法を修正することも大切なことです。それは自分自身のプラスになるだけでなく、ラグビーの普及発展にもプラスになるのです。

ボールを持って走っていて、相手に捕まって、どうすることもできないままに、倒されてしまってタックルが成立するという流れは、試合中、合法的に、自然的に、数多く起こる通常のことです。問題なのは、そうでない［地上横たわり］です。これが多いのです。
ボールを獲得した側にとって、タックルが成立することは、ボール展開の中断を意味するもので、タックルが成立しないように全力をつくさねばなりません。その方法はいろいろありますが、まず、その意思を持ち、決断決行することが重要です。無策なままに捕まってしまうのはつまらないことです。
無策なままに捕まってラックにするのが定型戦法になっているチームは、大いに反省改善しなければなりません。接点への接近の仕方が重大な検証課題です。接点でのぶちかましだけが強調され重要視されていますが、もっと大事なことがあります。
人間は、闘犬・闘鶏・闘牛などに興じる残忍性をもっています。大衆は激しいぶつかりを賞賛する傾向がありますが、ラグビーは格闘の激しさを楽しむ競技ではありません。頭脳的に躍動的に flair を生かして楽しむ球技です。競技規則の序文でも、身体の接触を伴う競技だから、必要な心がけを説いて、プレーヤーだけでなく指導者にも戒めています。
チームの指導に従っているのでしょうか、自分の勢いで倒れるのがよくみられます。プレーヤーの手に持たれているボールを、一旦地上に置くということは、展開の中断を意味します。中断を最短に短くして中継するプレーがラックですが、即展開をはかることがラック形勢の必須条件です。

次に、タックル成立してしまった場合です（タックラーおよびボールキャリアーについて）。
タックラーとボールキャリアーに係わる、「規定されている規則に反する行為」に対し「立ってプレーしなさい」「ルールを守りなさい」と叫んでしまいます。レフリーが笛を吹かないからと言って平気で反則やっているプレーヤーが多いからです。タックラーは直ちに相手を離さなければなりません。ボールキャリアーもボールから離れなければなりません。それができない場合も、ボールを身体から離して置く（動かしても）とか、パスする（immediately に）ことが規定されています。

続いて、タックル成立した後の周りのプレーヤー。
タックルが成立し（地上に双方のプレーヤーがよこたわっている）近くにいる双方のプレーヤーの規則に反する行為に対し「立ってプレーしなさい」「ルールを守りなさい」と叫んでしまいます。レフリーが笛を吹かないからと言って平気でやっているプレーヤーが多いからです。

競技規則に特に写真で示されているものもあり、注意して厳守しなければなりません。
・ボールを所有していた側のプレーヤーについて：
　地上に横たわっているプレーヤーの上に重なるようにして壁を作るのは反則です。ボールを確保するため意図的に倒れこむプレーヤーがいます。「両足で立って」いることが絶対条件です。
・相手側のプレーヤーについて：
　地上に横たわっているプレーヤーの上に重なるのは反則です。勢いあまってそうなってしまったように繕うのはいけません。オーバー・ザ・トップにならないかぎりレフリーが反則をとらないからというのは言い訳になりません。

以上のことは、平素から学習し意識し、練習していなければ、試合中勢いにまかせてやってしまうものです。ラグビーの原理原則に係わる重要なことです。そして、プレーヤー個人もチームとしても、立ってプレーすることに徹すれば、7 人制にも 15 人制にも通用し活躍できる、判断し走れるプレーヤーが育つということは肝要なことです。15 人制と 7 人制のラグビーの競技

根本原理は同じです。15 人を生かす競技方法の開始・再開形式を 7 人で行うように代えたものというものです。しかし、指摘されているように現在の 15 人チームの試合は running handling game という原理から逸れて、ボール獲得プレーにおいて格闘技要素を加えて満足していますが、そのため 15 人制ラグビーに習熟したプレーヤーが即 7 人制に通用しないのです。展開の中断や切断の多い power sports になってしまっているので、改革しなければならないのです。世界は 15 人と 7 人制を同一線上に正しく見ているのです。だからオリンピックに 7 人制が採用されてもあわてないのです。グローバルにラグビーの更なる普及発展を考えるときそれは絶対条件です。攻撃展開・継続のテンポとリズムが大切であることに早く目覚めてスタートしなければなりません。問題内容からいって 10 年のスパンで考え計画をたてねばならない問題です。

2009.12.20
西川　義行